



平成16年度 彩の国女性チャレンジ支援事業



# 自分らしさ、見~つけた!

チャレンジモデル事例集



埼玉県



彩の国女性チャレンジ支援事業、チャレンジモデル事例集の問い合わせ先

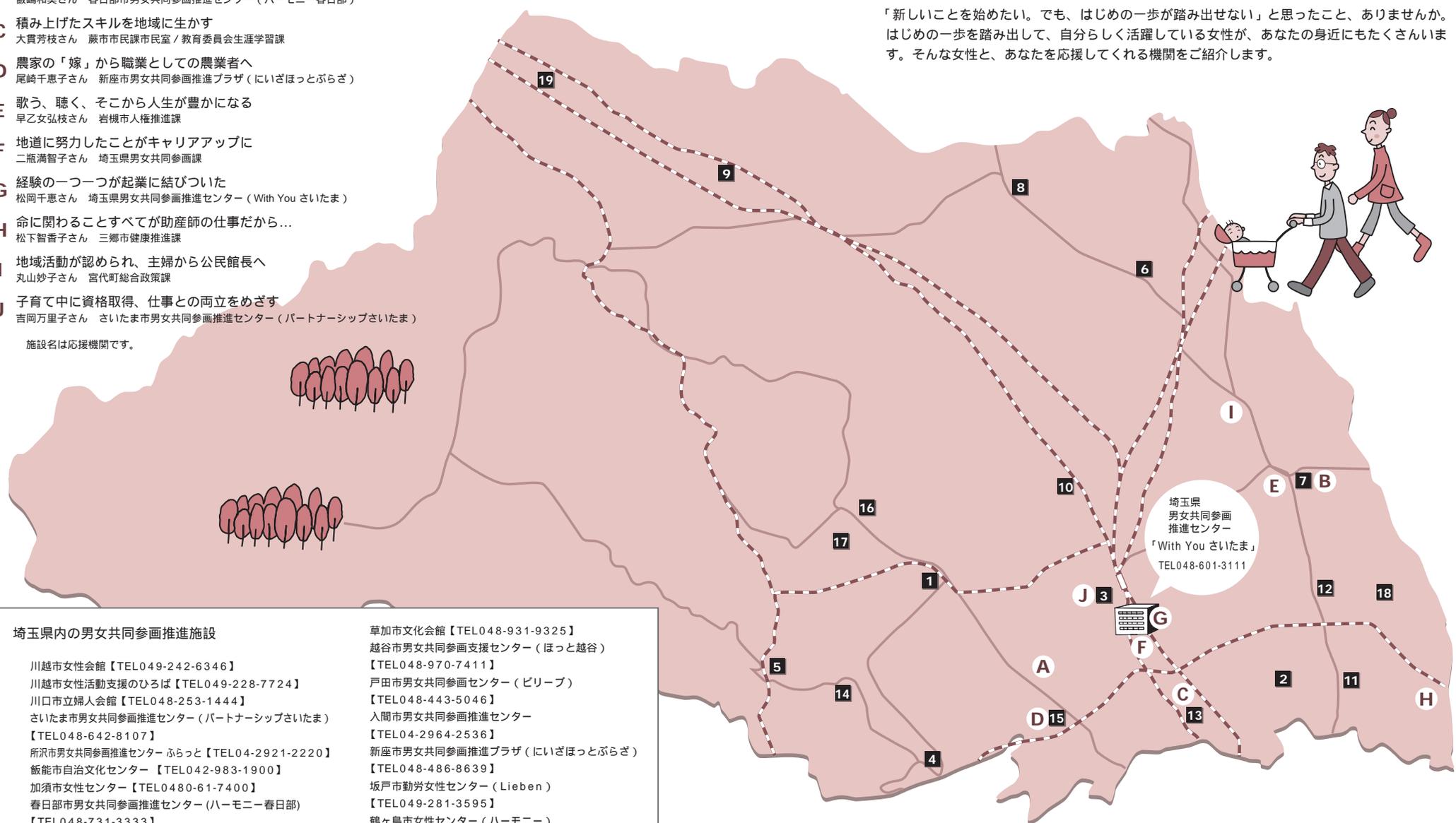
埼玉県 総務部 男女共同参画課 〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1 TEL 048-830-2927 FAX 048-830-4755  
E-mail a2920@pref.saitama.lg.jp <http://www.pref.saitama.lg.jp/A01/BS00/index.html>

- A** 小さな一歩から始まった大きな国際交流  
石井ナナエさん 富士見市共同参画推進室
- B** 障害児の母親が気軽に集まる場を！  
飯嶋和美さん 春日部市男女共同参画推進センター（ハーモニー春日部）
- C** 積み上げたスキルを地域に生かす  
大貫芳枝さん 蕨市市民課市民室 / 教育委員会生涯学習課
- D** 農家の「嫁」から職業としての農業者へ  
尾崎千恵子さん 新座市男女共同参画推進プラザ（にいざほっとぶらざ）
- E** 歌う、聴く、そこから人生が豊かになる  
早乙女弘枝さん 岩槻市人権推進課
- F** 地道に努力したことがキャリアアップに  
二瓶満智子さん 埼玉県男女共同参画課
- G** 経験の一つ一つが起業に結びついた  
松岡千恵さん 埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）
- H** 命に関わることをすべてが助産師の仕事だから...  
松下智香子さん 三郷市健康推進課
- I** 地域活動が認められ、主婦から公民館長へ  
丸山妙子さん 宮代町総合政策課
- J** 子育て中に資格取得、仕事との両立をめざす  
吉岡万里子さん さいたま市男女共同参画推進センター（パートナーシップさいたま）

施設名は応援機関です。

## 自分らしさを見つけた人、紹介します

「新しいことを始めたい。でも、はじめの一歩が踏み出せない」と思ったこと、ありませんか。はじめの一歩を踏み出して、自分らしく活躍している女性が、あなたの身近にもたくさんいます。そんな女性と、あなたを応援してくれる機関をご紹介します。



### 埼玉県内の男女共同参画推進施設

- 川越市女性会館【TEL049-242-6346】
- 川越市女性活動支援のひろば【TEL049-228-7724】
- 川口市立婦人会館【TEL048-253-1444】
- さいたま市男女共同参画推進センター（パートナーシップさいたま）【TEL048-642-8107】
- 所沢市男女共同参画推進センター ふらっと【TEL04-2921-2220】
- 飯能市自治文化センター【TEL042-983-1900】
- 加須市女性センター【TEL0480-61-7400】
- 春日部市男女共同参画推進センター（ハーモニー春日部）【TEL048-731-3333】
- 羽生市女性センター（パール羽生）【TEL048-561-1681】
- 深谷市勤労者家庭支援施設（L・フォルテ）【TEL048-573-4761】
- 上尾市男女共同参画推進センター（デュエット21）【TEL048-778-5111】

- 草加市文化会館【TEL048-931-9325】
- 越谷市男女共同参画支援センター（ほっと越谷）【TEL048-970-7411】
- 戸田市男女共同参画センター（ビリーブ）【TEL048-443-5046】
- 入間市男女共同参画推進センター【TEL04-2964-2536】
- 新座市男女共同参画推進プラザ（にいざほっとぶらざ）【TEL048-486-8639】
- 坂戸市勤労女性センター（Lieben）【TEL049-281-3595】
- 鶴ヶ島市女性センター（ハーモニー）【TEL049-287-4755】
- 吉川市民交流センター おあしす【TEL048-984-1888】
- 上里町女性センター（ウィズ・ユウ・上里）【TEL0495-35-1357】

## A 小さな一歩から始まった大きな国際交流



石井ナナエさん

認定NPO法人ふじみの  
国際交流センター理事長 50代

石井ナナエさんは、自分の子どもたちが海外でホームステイをしたときに現地の人たちが温かく迎えられたことを知り、とても嬉しくなりました。「日本で暮らす外国人のために、私も何かしたい」と、さっそく日本語教室のボランティアを始めました。

「始めてみてわかったことは需要に追いついていないということでした。地域に1つ、日本語教室が必要なくらいなのです。そこで、石井さんは平成元年、地元の公民館でも日本語教室を開くことにしました。

ところが、そこでもまた、石井さんは日本語を教えるだけでは解決できない問題があることに気づきました。たとえば、外国人であるために、職や住居を得ることができない人がいました。そういう実態を見るにつけ、生活全般にわたる、もっと総合的な支援が必要だと考えるようになりました。

そこで計画したのが、「ふじみの国際交流センター」の設立です。その日から、同じ考えの友人とともに、近隣の住民の理解を得るために奔走する日々が続きま



した。そうして、やっと平成9年に古い民家を借りて、立ち上げることができました。

今、センターでは、多言語情報誌の発行、日本語をはじめ各国語の語学教室、外国人の生活相談、子どものための国際交流事業、DVに悩む外国人女性のためのシェルターなど、幅広い活動を行っています。利用者数も年間3000人に膨れあがっています。

悩み事生活相談に訪れ元気を取り戻した人の中には、センターで母国語を教え始めた人もいます。帰国した人からは「犯罪に遭って困っている日本人を助けた」という便りももらいます。小さな一歩が、国境を越えて大きな渦になり始めていることを、石井さんは感じています。



### 【富士見市の男女共同参画事業】

「男女共同参画ふじみ2000年プラン」は、一般公募の市民を含む男女共同参画社会確立協議会の提言に基づいて策定され、市民と行政とのパートナーシップをもって推進しています。また、公募市民との共同企画による講演会・セミナーの開催や、広報紙・啓発冊子の作成、カウンセラーによる女性相談なども行っています。

【ふじみの国際交流センターとの関わり】

富士見市では国際化推進事業の一環として、外国籍市民のための支援事業、国際交流事業等を行っています。それらの事業展開をする上で、ふじみの国際交流センターとは、多言語の翻訳、外国籍市民生活相談の委託、国際交流フォーラムへの提言・協力などで関わりがあります。今やふじみの国際交流センターは、当市のみならず近隣市町にとっても、国際化事業を推進する上で欠くことのできない存在となっています。

### 富士見市 共同参画推進室

〒354-8511  
富士見市大字鶴馬  
1800-1  
TEL 049-251-2711

## B 障害児の母親が気軽に集まる場を！

飯嶋和美さんの2人目の子は現在23歳で、生後1ヵ月のときに脳内出血に見舞われたため、知的障害者です。3人目の子はダウン症で、心臓疾患を併発していました。その子の闘病生活を支えるため、16年間勤務した公務員を退職し、専業主婦になりました。看病もむなく、1歳2ヵ月で亡くなりました。「もっと何かをしてあげたかった」という思いが、今も心に残っているといます。

「障害がある子どもとお母さんは行くところがないのです。公園でも、子育てサロンでも、元気な子どもと一緒にいると、居たたまれなくなってしまう。それが、その子と過ごした頃を感じたことでした。その思いが現在の活動の原点になっています。

それまで飯嶋さんが関わってきた「春日部子育てネットワーク」は代表者が「自分がほしいと思うサークル」として立ち上げたと言いました。そこで、「自分に今できることは何か」と考えたとき、かつての自分を思い出し、平成15年春、障害児と母親のためのサロン「ちえの和」を設立しました。

月2回「ハーモニー春日部」で活動している「ちえの和」は気軽に立ち寄りおしゃべりをしていくサロンになっています。飯嶋さんは「先が見えない子どもの将

来に不安を抱く親にとって、苦しみや辛さをすこしでも共有してくれる仲間がいるということはとても大切なことなんです。どんな子どもでも未知の可能性を秘めており、障害があっても決してここまでということではないと思う。少し時間がゆっくりしているけれどわずかな成長でも一緒に喜びあいたい、そんなサロンをつづけていきたいと思っています」と言われました。

3年前からヘルパーとして高齢者や障害者を介護している飯嶋さん、「ちえの和」で自分の原点に立ち返ることが、多忙な毎日のエネルギーになっています。



飯嶋和美さん

「ちえの和」代表  
春日部市男女共同参画  
推進審議会委員 50代



「ハーモニー春日部」は春日部市にある男女共同参画社会実現のための活動拠点です。施設を貸し出すだけではなく、情報を収集・提供し、学習と交流の場を設けています。また、女性相談員による、女性のための悩み相談を実施しています。

学習事業には、「男女共同参画セミナー」「子育て支援講座パパママ編」「男性のための家事支援講座」「女性のためのスキルアップ

セミナー」などのほかに、「春日部に生きた女性の歴史発掘講座」があります。この講座では、受講者が一方的に講義を受けるのではなく、自ら郷土に生きた女性の歴史を発掘、調査研究し、発表することにより、受講者自身のエンパワーメントにもなっています。まさに、地域の歴史が、地域の人の力になって

### 春日部市男女共同参画 推進センター ハーモニー春日部

〒344-0063  
春日部市緑町3-3-17  
TEL 048-731-3333

## C 積み上げたスキルを地域に生かす



大貫芳枝さんは、「わらび学びあいカレッジ」の運営委員会でIT系部会長を務めるほか、「学びあいカレッジ」のパソコン講師も担当しています。

平成15年にスタートした「学びあいカレッジ」は、市の委託料と参加者の受講料により市民が学びたいことを市民の手で企画運営する組織です。大貫さんが部会長をつとめるIT系では、「基礎から学ぶWord」や「2歩目の方のためのパソコン講座」「仕事に役立つ！Word & Excel」などの講座が企画され、老若男女を問わず、たくさんの方が参加されています。

大貫さんがこの活動に参加するきっかけとなったのは、公民館のパソコン講座開講にあたって、市民からのボランティア募集に応募したことでした。その後、市の主催するIT講習の講師を務めるなど、蕨市の主催するパソコン講習に深く関わるようになりました。

OL時代、大貫さんはパソコンのインストラクターをしていました。出産を機に一度は専業主婦になりましたが、その後、子どもの成長に合わせてながら仕事への復帰をはかりました。復帰に際して大貫さんは、初めは自宅のすぐ近く、次は電車で一駅、さらに遠くまで

大貫芳枝さん  
わらび学びあいカレッジ  
IT系部会長 40代



と、また、仕事の内容も、生命保険の外交員からパソコンインストラクターと、柔軟に発展させていきました。そして、どうせ働くなら、好きな分野に戻りたいな、という思いで、もともとパソコンの分野が好きなので、インストラクターへの復帰をかなえたわけです。

個人事業主として一人で仕事をしてきた大貫さんですが、「学びあいカレッジ」で、組織作りの大切さを学んだと言います。「一人が抜けても、それをカバーするのが組織の力です。自分でやってしまったほうが早くても、あえて自分のスキルや考えを人に伝えていくことで、より強い組織を作ることができるんですね」と大貫さん。今は、後継者を育てていくことに意義を感じています。

「学びあいカレッジ」は、市民の生涯学習に役立つ、市民による市民のための学習が、未永く続くようにNPO法人化も視野に入れています。

## D 農家の「嫁」から職業としての農業者へ

今から30年ほど前、専業農家の長男と結婚して福岡から新座市に移り住んだ尾崎千恵子さんは、見ず知らずの土地で農業と家事と育児に追われる毎日を送っていました。「いい嫁にもなりきれず、忙しさにかまけて時間ばかりが過ぎていくことに焦りも感じていました」と、尾崎さんは当時を振り返ります。

そんな尾崎さんに転機が訪れたのは昭和63年です。その年、埼玉県が女性のための海外派遣事業を実施し、ヨーロッパ研修の参加者を募集したのです。なんとが自分らしい生き方がしたいと、出口を求めていた尾崎さんはもちろん家族を説得し、応募しました。

その研修の中で一番印象的だったのは、やはりヨーロッパの農業女性との出会いだと言います。「ヨーロッパの農業女性とは主体的に、自分らしく生きていると思いました」と語る尾崎さんは、彼女たちの様子を見て、逆に自分自身が「嫁」という役割にとらわれていたことに気づきました。

帰国すると、さっそく尾崎さんは気持ちを奮い起こ

して、前々から気になっていた『われら田舎のヒロインたち』という本の著者に直接電話を入れてみました。

その本は、自分たちでヨーロッパ研修を計画し実行した女性たちのてんまつ記です。その著者と話したことがきっかけとなって、農業

女性の全国組織「田舎のヒロインわくわくネットワーク」に参加し、日本でも主体的に自分らしく生きている女性たちと出会うことができました。

それからの尾崎さんは、行政や農業団体、地域等の役員に推されれば、いとわず積極的に引き受けるようになりました。平成15年には、農業女性と都市で起業している女性が協同で開催した「女性起業のみんなおいで！フェスタinさいたま」の実行委員長も務めました。「やろうかどうしようかと迷ったときは、あえて厳しい道を選ぶようにしています。それが私の人生を豊かにしてくれますから」と、今ではこれが尾崎さんの信条になっています。



尾崎千恵子さん  
さいたま農村女性アドバイザー、  
NPO法人「田舎のヒロインわくわくネットワーク」理事 50代



蕨市は、川口市、戸田市、さいたま市に隣接し、面積が5.10km<sup>2</sup>と全国一小さい市で、人口密度が全国でもっとも高い市として知られています（平成12年国勢調査）。その過密さゆえに住民間の交流が深く、各地域におけるコミュニティ活動も活発に行われています。男女平等への取り組みもいち早く、昭和63年に男女平等啓発紙「パートナー」を発行した以降、男女平等行動計画を策定し、平成15年には「蕨市男女共同参画パートナーシップ条例」が施行されました。この条例の制定には、市民で構成する男女共同参画市民

懇談会からの提言が尊重されています。特徴は、中学生でもわかるように“ですます”調で表現したこと、懇談会が公聴会を開くなど市民と共に作りあげたことです。内容は、市の責務が明らかこと、性別による権利侵害の規定があること、市の審議会である男女共同参画推進委員の公募等があげられています。学びあいカレッジに代表されるよう生涯学習や男女平等への取り組みは、女性も男性も、市民も行政も“みんなが参画する”ことにより、すみよい地域づくりをめざしています。

蕨市市民課市民室  
(男女共同参画担当)  
教育委員会生涯学習課  
(学びあいカレッジ担当)

〒335-8501  
蕨市中央5-14-15  
TEL 048-432-3200

新座市は、平成8年11月に全国で初めて職員の旧紙使用を制度化しました。男女共同参画推進条例の制定は、全国で4番目です。DV防止の取り組みを進めている「自治体DV政策を進める会」の調査では、DV被害者への対応など女性政策への取り組みは、県内90市町村中トップでした。「にいざほっとぶらざ」の施設内は充実しています。トイレには男性用にも赤ちゃん椅子やおむつ交換台を設置し、障害者用には利用者の声を生かして

細かい工夫がされています。1時間無料のインターネット、子連れで利用できる談話スペースもあります。予約不要、無料で利用できる「女性困りごと相談室」では、月1回、女性相談員が、相談を受けています。平成15年度の「女性のためのエンパワーメント講座」では、受講生が男女共同参画連続講座のプログラムづくりを行いました。平成16年度には、「男女共生フォーラム」で、受講生が運営するワークショップを実施します。

新座市男女共同参画  
推進プラザ  
にいざほっとぶらざ

〒352-0001  
新座市東北2-36-11  
TEL 048-486-8639

## E 歌う、聴く、そこから人生が豊かになる

「コーラスはみんなの気持ちを合わせることが大切なのです。私の役割は世代の違う生徒たちとおしゃべりしながら、気持ちの伝え役になることです」と語る早乙女弘枝さんは、児童合唱団「はじめの一步」、年配の女性グループ「ふじコーラス」、混声合唱団「コーロドルチェ」等の指導をしています。さらに、家では3人の子どもを育てながら、ピアノ指導もしています。岩機市の男女共同参画情報紙「クレヨン」の編集員でもあります。

合唱指導にあたることになったきっかけは、わが子に合唱をさせたくて、なくなってしまった児童合唱団を再開させたことです。合唱団は少しずつ活気を取り戻し、親同士も親しくなって、子育ての悩みを打ち明け、励まし助け合う場にもなっていました。

合唱指導をとおして早乙女さんが感じたのは、子どもたちが知っている童謡が少ないこと、歌を歌っていても情景が浮かばないために感情移入ができないこと

などでした。そこで、「はじめの一步」では、毎年地球・戦争・平和をテーマとしてコンサートを開催することにしました。「テーマを持つことは、思いを胸いっぱい膨らませて歌うことに繋がります」と早乙女さん。

探究心旺盛な子どもたちは、インターネットからも調べ、歌でどう表現しようかと考えていました。子どもたちが舞台上で見せる真剣なまなざしが、早乙女さんの活力でもあり、指導の醍醐味でもあります。そんな子どもたちの姿に励まされてソプラノ歌手としてのソロ活動も再開し、年に数回の演奏会も行っています。

もう一つの活動「ふじコーラス」は、老人ホームやデイケアセンターを訪問して、歌を披露しています。初めは同年代でありながら、元気な「ふじコーラス」のメンバーと介護が必要な訪問先の方々とがどんな気持ちで向き合うのか不安でしたが、歌を聴いて涙を流し感動してくれたのを目の当たりにして、そんな心配は必要なかったと安堵しました。「歌を歌う、聴く。それぞれがいろいろな思いを持って感動することが、人生を豊かにしていきますね」と、早乙女さんは語ってくれました。



早乙女弘枝さん  
声楽家、合唱団指導 40代

ライフストーリー

出産後、自宅でピアノ教室を開く

児童合唱団を再開

合唱団の指導と情報紙の編集員

ソプラノ歌手としてソロ活動

岩機駅前にある「ワッツコミュニティセンター」は、男女共同参画セミナーなどによく利用されます。このセンターは、市民サービスコーナーのほかにコミュニティ活動やボランティア活動の場として利用でき、4階の「情報プラザ」では、パソコンが10台設置されており、無料で自由にインターネット等を使って情報収集することができます。「親子ふれあいコーナー」も無料で利用でき、親子が安全に、くつろいで遊べるようになっています。そのほ

か、有料の音楽スタジオ、ミニホール、多目的イベントスペース等があります。また、男女共同参画情報紙「クレヨン」は、白い紙に自由に、力強く、自分にあった色合いで人生を描いてほしいという意味が込められており、いろいろな世代の方々に読んでもらえるよう、特集を組んでいます。点字版もボランティアで50部作成しています。発行は3月と9月の年2回、全戸に配布しています。女性人材リストの登録者募集もしており、審議会等への女性登用率の向上をめざしています。

### 岩機市 人権推進課

〒339-8585  
岩機市本町6-1-1  
TEL 048-757-4111

## F 地道に努力したことがキャリアアップに



二瓶満智子さん  
協和精工株式会社  
取締役検査部長 50代

ライフストーリー

二児を出産後パートとして始める

正社員になる

管理職に登用され、その後取締役になる

「自分の歯の治療費くらいは自分で働いて捻出したいと思ったのです。自分のことは自分でという意気込みがしなね。そういう気持ちが二瓶満智子さんを働くことへと突き動かしました。

25歳のときパートとして入社したのが、現在の勤め先です。最初の仕事はガスライター部品の組み込みという、精密さが要求されるものでした。一生懸命な仕事ぶりが評価され、やがて流れ作業のラインリーダーに抜擢され、正社員への登用に繋がりました。

しかし、前向きにがんばれば評価されるのだと嬉しく思う反面、がんばればがんばるほど残業が多くなり、家事をしたり子どもと過ごす時間がつれないというジレンマに陥りました。帰宅時間が遅くなり、食事を作ることさえ、ままならない日もありました。

子どものために時間を割いてあげなくてはならない状況に直面して悩んだときには、ついに辞めるしかない、社長に相談しました。そのときの社長の言葉は

「辞めるのはいつでも辞められる。気が済むまで家族のために休んだらいい」という理解溢れるものでした。その言葉があったことで、家族のための時間をつくり、気持ちを切り換えることができた二瓶さんは振り返ります。

管理職に昇格したときは、女性だということ得意先から認めてもらえず悔しい思いもしました。しかし、相手を尊重しつつも、自分の考えをしっかりと説明しました。その真意がやがて相手に伝わり、いつしか「この仕事は二瓶さんに」と言われるまでに信頼関係を築くことができました。「悔し泣きをしたことは何度もありますが、今となっては何が悔しかったのか思い出せません。そういうお客様との関係が二瓶さんの大事な財産になっています。

現在はOA機器部品の組立や検査部署の営業担当取締役として約200名を統括しています。今後の夢は自分が立ち上げから関わってきた広島工場の拡大と部下たちの育成。「それぞれ違う個性を伸ばすこと、それが私の役割です。そういう中から、私のあとに続く人が出てくれたらうれしいと思います」

埼玉県では、女性の能力活用や仕事と家庭の両立支援など、男女が共同して参画することのできる職場作りに取り組み、従業員がいきいきと働いている事業所を「男女共同参画推進事業所」として表彰しています。

平成12年度より始まったこの制度により、平成16年度までに19の事業所が表彰されています。応募の対象は、県内の事業所(支所・支店)で次のいずれかに該当するものです。女性の能力活用や職域拡大のため、積極的な取り組みを行っている事業所。たとえば、

女性の管理職への積極的登用や女性の従業員の資格取得支援などです。仕事と家庭の両立を支援するため、法を上回る処遇を行うなど独自の制度があり、それが活用されている事業所。たとえば、法を上回る育児・介護休業制度や在宅勤務制度・フレックスタイム制度などです。その他、男女が共同して参画することのできる職場作り積極的に取り組んでいる事業所。たとえば「男女共同参画型企業」宣言などです。

### 埼玉県 男女共同参画課

〒330-9301  
さいたま市浦和区高砂3-15-1  
TEL 048-830-2927

## G 経験の一つ一つが起業に結びついた



松岡千恵さん  
有限会社 SEZONO代表  
40代

松岡千恵さんが代表を勤める「有限会社SEZONO」は、パン作り、フラワーアレンジメント、メイクなどの講座を提供するカルチャースクールです。それらの講座をとおして、子育て中の女性が日常生活の中で活かせる情報の提供をしています。また、仕事と育児の両立支援・母子ともに楽しめる空間づくりもめざしています。

第一子を出産後6年間の専業主婦を経験した松岡さんは、子育て中の女性は子どもを介してしか社会との接点をもてないと感じました。この時期に別なコミュニケーション手段をもっていれば、その閉塞された状況から解放されるとの思いが、SEZONO運営の根底にあります。



松岡さんは、講座に参加する女性もコミュニケーションをとりたくて通ってくると感じています。だからこそ、SEZONOの講師には「技術を介して人と向き合える人、コミュニケーションの取れる人」を求めています。

松岡さんがSEZONOを設立したのは平成16年2月でした。これは、「With You さいたま」主催の「女性起業支援講座」に参加後、わずか4ヵ月のことでした。しかも年末に、介護を続けた父親を亡くしたばかりで、精神的にはどん底の時期でもありました。このままだといけないという強い思いと、「女性起業支援講座」に参加したことが起業への最後の一押しとなりました。

「今の時代は、いくつかの仕事があるとしたら、一つずつ順番に集中的に行うのではなく、違った事柄を同時に動かしていく能力が求められています。実は家庭を持つ女性は、それを毎日家庭生活の中で実践しているのです。たとえばカレーを作るとき、煮込んでいる鍋のそばにずっといる主婦はいないですよね」と松岡さん。

さらに、「種まきと収穫と新種探しが起業の醍醐味。お金をいただいて仕事をしているのですから、そういう企業努力をすることが大事です」と続ける松岡さんの言葉には、起業家としてのプロ意識がにじみ出ていました。

## H 命に関わることすべてが助産師の仕事だから...



助産師として病院の産婦人科に勤務していた松下智香子さんは、結婚を折に退職しました。出産後、子育てのかたわら、講習会や講演会で勉強

演会で勉強を続けるうちに、「命に関わることすべてが助産師の仕事である」ことに目覚めていきました。同時に「ずっと命に関わっていたい」という思いから、看護学校の非常勤講師として助産師を続けました。

平成9年、三郷市は、新生児訪問事業を行う助産師を募集しました。松下さんは、「助産師の仕事なら」と、応募。たくさんの新生児や母親と出会っていくうちに、この事業にのめりこんでいき、平成15年には、新生児訪問を主に取り扱う助産所を開業しました。「地域に根ざした事業を行うには、助産所を開業し、市の委託を受けるのが一番ふさわしいと思いました」と松下さんは開業の理由を挙げています。

「たくさんの赤ちゃんやお母さんに出会うのが何より楽しいです。お宮参りの写真をメールで送ってくれる人もいますよ」と松下さん。



「命というものが軽んじられている今の時代、虐待や暴力のルーツを探っていくと、思春期や幼年期にたどり着いてしまう。だから、私は思春期や幼年期の子ども達とも関わっていきたくと思っています。昨年は中学校の授業で、市内で開業する助産師が協力し合って、疑似妊婦体験と乳児の沐浴体験を行いました。

松下さんが訪問する家庭でも、子育てが一段落したら、また社会復帰したいという母親がたくさんいます。「子育て中こそ、社会復帰の準備期間にしてほしいですね。ちょっとした時間でも、在宅でも、通信教育やインターネットで勉強できますから」と、松下さんは自らの経験をもとに語ってくれました。



松下智香子さん  
松下助産所 30代

「With Youさいたま」の愛称で知られる埼玉県男女共同参画推進センターは、平成14年にオープンしました。当センターは、男女の人権が尊重され、自立したパートナーとして対等に参画できる、活力に満ちた男女共同参画社会づくりを支援するための総合拠点として、多くの方々に活用されています。

主な事業としては、情報ライブラリーを中心とした「情報収集・提供事業」、電話相談や弁護士、医師等による専門相談を行う「相談事業」、男女共同参画を推進する団体・個人

の活動支援やネットワーク作りなどの「自主活動・交流支援事業」、男女共同参画への認識と理解を深め、実践的な行動に結びつける講座やイベントを実施する「学習・研修事業」があります。また、セミナー室や交流サロン、活動発表コーナーは誰でも気軽に利用することができます。

ここで開催される講座は託児付きで受講することができます。毎年好評の「女性起業支援講座～一旗あげよう大作戦～」の受講生からは多くの女性起業家が生まれています。

埼玉県男女共同参画推進センター  
With Youさいたま

〒330-0081  
さいたま市中央区新都心2-2  
TEL 048-601-3111

三郷市の新生児訪問事業は、スタートして以来、平均すると年間800人を超える利用があります。また、市内在住の外国人の母親に対しても、離乳食や母乳育児などの実践的な育児相談を行っており、確実な実績を上げています。

さらに、平成17年度からは、育児支援家庭訪問事業も始まります。この事業は、過重な育児負担を抱える家庭を母子保健事業のあらゆる機会を通じて早期に見つけ、必要に応じて専門的育児指導から家事援助までのきめ

細かいサービスを家庭訪問で提供し、乳幼児の家庭養育が安定して行えるように支援するものです。

三郷市には、「母子保健チーム会議」と称して、関係する課を超えて、関係者全員が問題に取り組みむシステムがあり、健康推進課が事務局となっています。過去には、新生児訪問の際に、DVや児童虐待が疑われたケースもあり、こういったケースにも対応できるようになっています。

三郷市健康推進課  
(母子保健担当)

〒341-8501  
三郷市花和田648-1  
TEL 048-953-1111

## I 地域活動が認められ、主婦から公民館長へ



「未来のお母さんを応援しよう」。町の広報誌の中に見つけた、そんなキャッチコピーがその後の、丸山妙子さんの運命を一変させました。

当時、宮代町では、男女共同参画に対する意識改革を若い母親たちからも図りたいと考えました。そして、その事業に関する取り組みへの協力者を募集していたのでした。子どもが小学生になり少し手が離れたので、「今度は、ほかのママを応援するなど、地域に根ざした活動をしたい」と考えるようになっていた丸山さんは、「ときめきスタッフ」と名づけられたその募集に、「これだ」と思うものを感じました。

丸山さんはさっそくスタッフになり、町の広報誌の一部で男女共同参画を紹介するために、連日、メンバーとアンケート集計や編集作業をしました。やがて、情報発信するだけでなく、町民の意見も聞きたいとの思いが強くなり、スタッフの仲間とともに「集い」を企画しました。行政の担当者に相談し、そのバックアップを受けながら、「みやしろ男女共生情報誌 ときめき通信」も発行しました。

しかし、集いは開散としていました。そこで、集いの主旨を寸劇にしたらどうかと思いつきました。寸劇では仕事と家事の両立に悩む「主婦の叫び」など身近なテーマを扱い、好評を得ました。

丸山妙子さん  
宮代町公民館館長 50代



平成14年には、県から一人の大抜擢を受け、内閣府主催の男女共同参画全国ヤングリーダー会議で「ときめきスタッフ」の活動内容などを発表しました。その翌年、埼玉県男女共同参画アドバイザーになりました。

このようなさまざまな活動が認められ、町から「あなたの活動そのものが生涯学習。ぜひそれを町のために役立ててほしい」と依頼を受け、現在は町の5つの公民館を統括する館長の職にあります。非常勤の社会教育指導員としても、公民館講座の企画、運営などをスタッフとともに手がけています。講師として壇上に立つことも多い日々の中で心がけているのは、難しい言葉ではなく、体験に基づいた言葉で話すこと。参加者から「ありがとうございました」と言われることが何よりも励みになるという丸山さん。町民と行政のパイプ役になるのが目標だと語ってくれました。

「ときめきスタッフ」は宮代町の男女共同参画の取り組みとして、町が広報で募集したのがスタートです。今年度からは、「ときめきスタッフ」を発展的に解消し、「男女共同参画社会推進会議」を設置しています。現在6名が活動しています。推進会議では、男女共同参画に関するセミナーの企画・運営と情報誌を発行します。推進会議は町民の主体的な活動を、行政がサポートするという形を取って

います。

また、平成16年4月より、宮代町市民参加条例がスタートしました。条例では、積極的に町民に参加してほしいと、原則として審議会に公募枠を設けています。この公募枠は有識者や団体代表者に限らず、町民誰でも参加できるように、広く募集しています。また、子育て中の方が積極的に参加できるように一時保育を設け、女性の社会参加を促進しています。

### 宮代町総合政策課 (政策調整・住民参加推進担当)

〒345-8504  
南埼玉郡宮代町笠原1-4-1  
TEL 0480-34-1111

## J 子育て中に資格取得、仕事との両立をめざす

結婚後も働きたいと願っていた吉岡万里子さんは、一旦はやむをえず専業主婦になったものの働く夢は捨てきれずにいました。子どもと公園通いの毎日が続く中、「これでいいのか」と自問自答の日々。「何かを始めたい」

かつては、銀行そしてビジネス経営雑誌の出版社へ勤めるなど、自他ともに認めるほどエキサイティングだった彼女。「今まで得たものをさらなるステップアップの為に基盤とし、育児期間中だからこそできることをしてみよう」。そうして始めた勉強だったといえます。

独身時代に培った「仕事、業務経験」を資格という形で表したい。「それが住宅ローンなどを含めたライフプラン、保険や預金、証券など金融商品の設計プランを作成する「CFP ファイナンシャルプランナー」という資格だったのです。途中、夫の海外転勤というハプニングもありましたが、気持ちを切り替えることで乗り越えてきました」と吉岡さん。

それからは、子どもが公園で機嫌よく遊んでいるわずかな時間も公園のベンチで本を開き、また、少しで

子どもが寝始めたとき、ベビーカーごと図書館に行き参考書に目を通しました。

幼い子の手を引きながら、参考書がいっぱい詰まった、重そうな、大きなバックをぶらさげて歩くので、周囲の人から好奇の目で見られたこともあり、「いつも大きなバックを持っているなんて、よく言われました」と苦笑する吉岡さん。そういう思い出も、今ではがんばった自分への励ましの言葉だったように思えると言います。

その努力の甲斐あっての合格。資格取得後は、かつての仕事経験も生かすFPならではの視点も大切にしながら、自宅を拠点に、保険の見直しや住宅購入、資産運用などのコンサルタントを始め、今では執筆、講師なども行うようになりました。

さらに、平成16年10月、子育て中のFP仲間と「NPO・FPフレンズ」を立ち上げました。そこでの活動は、経済面から見たライフプランの相談や、子どもを対象としたお金の使い方教室、大人向けの投資教室などの開催です。

「無理をしないで、自分に合った努力の仕方をしてきたことが、今の働き方につながっています」と吉岡さん。仕事と育児の両立という願いもかない、大きな一歩を踏み出しました。



吉岡万里子さん  
CFP ファイナンシャルプランナー  
30代



「パートナーシップさいたま」は、平成16年5月に大宮駅西口に開設され、学習・交流・活動の場として団体、市民の方に広く利用されています。主な事業は、男女共同参画に関する図書・行政資料・雑誌・ビデオ等の情報収集・提供、専門相談員による女性の悩み電話相談や法律、健康に関する相談、講座等の実施です。

講座では、「さいたま市女性カレッジ(全20回)」や「男性短期カレッジ(全5回)」のほか、男女共同参画推進に向けた各種講座を開講しており、好評を博しています。また、「パートナーシップさいたま」のほかに「女・男プラザ」(緑区にあるプラザイースト3階)にも、相談室、交流コーナー、情報コーナー、活動室があります。

### さいたま市 男女共同参画推進センター パートナーシップ さいたま

〒330-0854  
さいたま市大宮区桜木  
町1-10-18  
TEL 048-642-8107

「女性の元気・女性のやる気」を応援

## イベントカレンダー

さまざまな分野にチャレンジしたい女性に役立つ講座・事業の情報を提供する「イベントカレンダー」を埼玉県男女共同参画推進センター（With Youさいたま）のホームページ <http://www.withyou-saitama.jp/index.htm> に開設しています。講座・事業の広報としても御活用できます。掲載を希望される場合は登録が必要です。手続きについてはホームページをご覧ください。

2005年1月

<前月へ 当日へ 翌月へ> 年月指定 2005 年 1 月 移動

日	曜日	イベント	備考
12	水	就職支援セミナー [申込要] / 久喜市・幸手市近辺 「1円会社」起業セミナー [申込要] / さいたま市・上尾市近辺 パートタイム労働ガイダンス(大宮) / さいたま市・上尾市近辺	
13	木	出前就職支援セミナー [申込要] / 所沢市・入間市近辺 ぶりまべ〜ら・編集講座 ~インタビュー記 [申込要] / さいたま市・上尾市近辺 就職のための心構えと自己理解・職業理解 [申込要] / さいたま市・上尾市近辺 いいしごと発見セミナー [申込要] / 越谷市・草加市近辺	
14	金	技能講習 [申込要] / さいたま市・上尾市近辺 貸研究室内居者募集 [申込要] / 川口市近辺 条例が果たす役割~男女共同参画社会に向け [申込要] / 川越市近辺 目指そう・事務系就職 [申込要] / さいたま市・上尾市近辺 男女共同参画講座「もうやめよう! 女だから」 [申込要] / 所沢市・入間市近辺	大波見のどんど機
15	土	おとなのまなびを拓こうII [申込要] / さいたま市・上尾市近辺 起業家交流サロン [申込要] / さいたま市・上尾市近辺 こうのす男女共生フォーラム / さいたま市・上尾市近辺 埼玉NPOフォーラム2005 [申込要] / さいたま市・上尾市近辺	

## 女性のチャレンジ支援とは?

男女共同参画社会の実現に向けて、女性の新しい発想や多様な能力を活かせるよう、就業や起業、NPO、農業などさまざまな分野での女性のチャレンジを支援するものです。

## 平成16年度の埼玉県の取り組みは?

埼玉県は、女性のチャレンジ支援として、「埼玉県男女共同参画推進センター（With You さいたま）」を拠点に、雇用や福祉、産業など複数の関連機関・団体で構成する地域ネットワークを構築しました。ネットワーク連絡会議を開催し、女性を支援するためのセンターのあり方等について検討しました。

また、女性のチャレンジに役立つ事業を団体からご提案いただき、女子学生の就職支援、子育て期の女性の再就職支援など8事業を実施しました。

これらの女性のチャレンジ支援に関する情報を、「女性の元気・女性のやる気」を応援するためのイベントカレンダーとして、「With You さいたま」のホームページで提供しています。詳しくは、14ページをご覧ください。

## 編集後記

この事例集は、地域でそれぞれ活動している女性5人が、チャレンジモデルの取材・執筆をおして編集について学びながら制作しました。さらなるチャレンジへの糸口を見つけたその5人の編集員から、皆さまへのメッセージです。

大塚啓子 (Mama&kid's Club Wako) :取材対象者の「自分の仕事+地域のボランティア以上の活動」に感動しました。そのすべてを伝えられたのですが、限られた文字数で、上手な文章にできず、自分の力不足を実感。でも、とてもよい勉強になりました。

荻野裕佳里 (越谷子育てサークルネットワークの会) :4人の女性を取材しました。4人とも、始めから大きな目標があったわけではなく、目の前の小さなことを一歩一歩積み重ねていて、今の姿がありました。「私も今の活動を大切にしていきたいんだな」と思いました。

小野幸子 (イベント・ママ) :ボランティア・NPO・起業などかたちは違っても、自分のおかれた環境の中で、柔軟に自分を変えながら、でも自分のやりたいことを実行に移してきた女性をインタビューするうちに、自分にも何かできそうな気がしてきました。書きたいことはいっぱいあるのに、取材したこと全部を伝えきれないのがもどかしくて...

木太久陽子 (特定非営利活動法人彩の子ネットワーク) :久しぶりに頭をフル回転させました。この制作に参加して、ステキな人に出会えたことは、これからのワタシの宝物です。新たな第一歩を踏み出す元気がでて、夢が広がりました。

古川佳子 (ぶりまべ〜ら) :この人素敵!とインタビューのたびに感動していた私。人は、いつからでも輝けるのだと確信しました。この感動が、この冊子を手にした方々に伝わって、キラキラと輝く人が増えるといいな。

この冊子は「地域におけるチャレンジ・ネットワーク環境整備推進事業」により作成しました。